うたとかたりの対人援助学

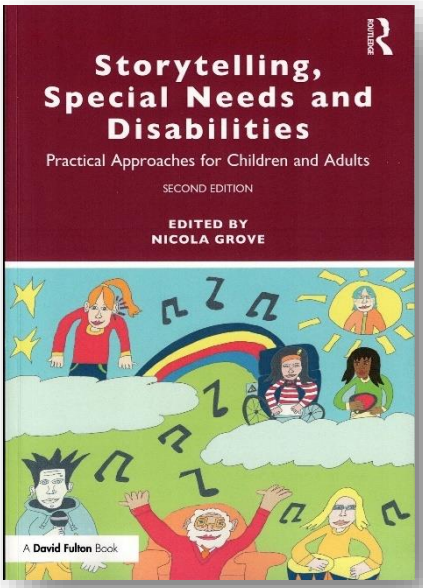
第 29 回「ニコラ・グロウブ編《ストーリーテリング・特別支援・障害》を読む」

鵜野　祐介

はじめに

本連載の前々回（第 27 回、2023/12/15 配信）の中でニコラ・グロウブについて紹介したが、今回は、彼女が 2022 年に編集・出版した『ストーリーテリング・特別支援・障害ー子どもや大人への実践的アプローチー *Storytelling, Special Needs and Disabilities: Practical Approaches for Children and Adults*』（2022）を取り上げる。

昨年（2023）11 月の日本発達障害学会第 58 回研究大会の自主シンポジウム「障害者の世界を広げるストーリーテリング」に指定討論者として参加したのをきっかけに、高野美由紀、有働眞理子、光藤由美子、各氏との交流を通して、グロウブが提唱する「マルチセンソリー・ストーリーテリング」の理念や実践に関心を持つようになった。その入門書となるのがこの本だと教えていただき、入手した。



現時点では、裏表紙の紹介文や目次そしてグロウブ執筆の序章（introduction）に目を通しただけだが、とても興味深い内容である。日本語訳はまだ出版されていないようなので、今回のエッセイの中で、本書のエッセンスを紹介できればと思う。そして、共感の声が数多く挙がるようであれば、ぜひ全文の翻訳を手掛けてみたいと考えている。

ニコラ・グロウブのプロフィール

グロウブ（2022）の裏表紙に掲載された、彼女のプロフィールは次の通り（拙訳）。

> ニコラ・グロウブは、英語教師・言語聴覚療法士・大学講師の職歴を持つ。「チャリティ・オープンストーリーテラー」や「ストーリーシェアリング・アプローチ」という団体を発足させた。また現在は、独立した形での相談員・研究者として活動している。知的障害者のための、オルタナティヴなコミュニケーションや文学やストーリーテリングに関する出版物を発行するとともに、多くのストーリーテラーや教育者や療法士たちと共に国際的な活動をしてきた。2020 年、学習障害者の「パンデミック・ストーリー」を収集するウェブサイトを開設した。王立言語聴覚療法士大学名誉研究員、オープンユニバーシティ学習障害社会史研究会会員。

本書の概要

本書は、2012 年に出版された『ストーリーテリングを用いて子どもや大人に特別支援を ―語ることを通じて生活を変える― *Using Storytelling to Support Children and Adults with Special Needs: Transforming Lives through Telling Tales.*』の増補版で、いずれもグロウブの編集、ルートレッジ社からの発行である。

本書の裏表紙に、概要が次のように記されている。

理論と実践の両方をバランスよく示しながら、本書の著者たちは、包摂的な(インクルーシヴ)ストーリーテリングに対するそれぞれのアプローチについて定義し、自身の実践の土台となる原則や理論について記述し、尚且つ、自身の仕事の中心に喜びがあることを語っている。

本書には、「療法(セラピー)としてのストーリーテリング」「言語とコミュニケーション」「相互的で多感覚的なストーリーテリング」「テクノロジーと語り」などのトピックスが取り上げられている。

各章には具体的事例が示され、自身の仕事の中で物語を使ってみたいと考えている実践者にとって、さらなるステップを踏んでいくための道しるべが示される。これによって、本書は多様な特性や障害を持つ学習者とともにストーリーテリングを実践するための、要を得た、分かりやすいガイドブックとなっている。

目次

本書は、グロウブの執筆による序章の後、全 25 章の論文と、参考資料「ストーリーテリング関連団体・機関のリスト」および索引から構成されている。

1. Therapeutic storytelling with children in need（特別支援を必要とする子どもとの療法的なストーリーテリング） Janet Dowling

2. Feelings are funny things: Using storytelling with Children Looked After and their carers（感じることは楽しいこと ―ストーリーテリングを使って子どもとこれまでのことを振り返る―） Steve Killick

3. Healing stories with children at risk: The StoryBuildingTM approach（危機に立っている子どもを癒す物語 ―「物語を組み立てる」《トレードマーク》アプローチ―） Sue Jennings

4. What can teachers learn from the stories children tell?: The nurturing, evaluation and interpretation of storytelling by children with language and learning difficulties（教師は子どもが語る物語から何を学ぶことができるか？ 言語機能障害の子どもや学習困難な子どもにとってストーリーテリングが持つ養育的意味・評価・解釈について） Beth McCarffrey

5. Lis' n Tell: live inclusive storytelling: Therapeutic education motivating children and adults to listen and tell （聞き・語る ―包摂的なストーリーテリングを生きる ―子どもや大人を、聞き・語ることへと動機付けする療法的教育） Louise Coigley

6. Interactive storytelling（相互作用的ストーリーテリング） Keith Park

7. Speaking and Listening Through Narrative（物語ることを通じての話すことと聞くこと） Bec Shanks

8. Using narratives to enhance the language, communication and social participation of children and young people with speech, language, and communication needs（話すことや言語やコミュニケーションに特別支援を要する子どもや若者に、物語ることを用いて言語やコミュニケーションや社会的参加の能力を向上させる） Victoria Joffe

9. Creative use of digital storytelling（デジタル・ストーリーテリングの創造的活用） David Messer and Valerie Critten

10. Storytelling in sign language for deaf children（聴覚障害児のための手話言語を用いたストーリーテリング） Rachel Sutton-Spence

11. Literature and legends: Working with diverse abilities and needs（文学と伝説 ―多様な能力や支援を用いた活動―） Nicola Grove and Maureen Phillip

12. Storytelling with all our senses: mehr-Sinn ® Geschichten（我々の感覚すべてを用いたストーリーテリング ―もっと意味のある物語―） Barbara Fornfeld

13. Multi-sensory story-packs（多感覚的な物語ひと包み） Chris Fuller

14. Storytelling with nurturing touch: The Story Massage Programme（養育的な触れ合いを持つストーリーテリング ―物語のメッセージ・プログラム―） Mary Atkinson

15. Rich inclusion through sensory stories: Stories from science（感覚的な物語を通じての豊かな包摂性―科学から物語へ―） Joanna Grace

16. Describing and evaluating the storytelling experience: A conceptual framework（ストーリーテリング体験の記述と評価 ―概念的枠組―）
Tuula Pulli

17. Sensitive stories: Tackling challenges for people with profound intellectual disabilities through multi-sensory storytelling（傷つきやすい物語―重度の知的障害者への多感覚的なストーリーテリングを用いたチャレンジを試みる―）
Loretto Lambe , Jenny Miller and Maureen Phillip

18. Social Stories TM（社会的な物語《トレードマーク》）
Carol Gray

19. Storysharing®：Personal narratives for identity and community（物語を共有すること ―アイデンティティとコミュニティのための個人的な語り―）Nicola Grove and Jane Harwood

20. Personal storytelling with deafblind individuals（盲ろう者との個人的なストーリーテリング） Gunnar Vege and Anne Nefstad

21. Personal storytelling for children who use augmentative and alternative communication（たくさんの別な形でのコミュニケーションを用いる子どもに対する個人的なストーリーテリング）
Annalu Waller and Rolf Black

22. Self-created film and AAC technologies（自主制作映画と AAC テクノロジー）
Mascha Legel and Christopher Norrie

23. Learning to tell: Teaching skills for community storytelling（語るための学び ―コミュニティ・ストーリーテリングのための技法を教える―） Nicola Grove and Jem Dick

24. The autistic storyteller: Sharing the experience of otherness（自閉症のストーリーテラー ―他者性の体験を共有する―）
Justine de Mierre

25. Tales from the heart: Testimonies from storytellers with learning disabilities（心からの語り ―学習障害を持つストーリーテラーからの証言―） Sayaka Kobayashi, The Arts End of Somewhere and Openstorytellers

お話を語ること（序章より）

お話を語ることは、地球上で最もシンプルで楽しくて、人を変えていく営みの一つである。家庭で、教室で、美術館や博物館で、福利厚生施設で、特別支援を必要とする障害を持つ子どもや大人と触れ合い、彼らの生活に関心を持つすべての人びとに、自信を持って、楽しく創造的で力を与えるようなやり方で物語を語ってほしいと、この本とともにエールを送りたいと思う。

私たちは知っている。たくさんの子どもたちが言語に関するスキルをわずかしか持たないで学校に入り、読み書きや話す能力も低いレベルのまま卒業し、その後の人生にも大きな影響を与えていることを。そしてその状況は、近年になっても好転していない。

地球上全体の人口の約 10 パーセントは言語に関わる障害を持って生きていると言われている。アメリカ合衆国では学齢期の子どもの 14 パーセントが該当し、イギリスでは学齢期の子どもの約 20 パーセントが特別な教育的支援を必要としているとされる（SENDs）。

5 歳から 7 歳までの要支援児のうちの半数が、話すことや読むことに困難を持つと認められる。こうした問題は連鎖反応を持つ。低学年の子どもが上の学年になると、様々な面でリテラシー［読み書き能力］の難しさが目立ってくる。そして思春期になると、振る舞いの困難さが顕著になる（ICAN/RCSLT, 2018）。

この年の調査とその後の調査によれば、特別支援児の達成度は、予想よりも遙かに低い水準が続いており、学校を離れた後のさらなる学習機会やキャリアを得るのにも不利である。

地球規模のパンデミックの出現は、健康面での不平等性や、人びとの間の強いストレスを増加させ、特に障害者や特別支援を必要とする子どもとその家族に対して悪影響を与えた（APPG, 2001）。けれども、それと同時に、私たちは皆、こうした困難な時期を生き延びるために、私たちの物語を共有することが助けとなると気づかされたのである。（by Nicola Grove）

おわりに

今回、この原稿に取り組む時間が十分に取れず、裏表紙の概説、目次、序章の冒頭部しか紹介できなかった。翻訳の推敲も不十分で、誤訳した箇所や、日本語の文章としてこなれていない箇所がたくさんあるのでは？と案じているが、本書の内容の意義深さを少しでもお伝えできていたら嬉しい。

次回以降も、不定期になるかもしれないが、継続して本書について紹介していきたい。ご感想やご意見をぜひお寄せください。